

臺灣産梟鴞目の一新亞種

侯爵山階芳麿

タカサゴフクロフは Dr. Arnold Moltrecht によつて約28年前に Rautai-San, Nanto District で發見せられたものであるが、臺灣にても稀なもので余は其の以外に標本あるを知らなかつた。其の後折居彪二郎氏が 1933 年 4 月 4 日に阿里山にて採集した♂ ad. 1 羽を入手したが、最近山田信夫氏は更に♂ ad. 1 羽を新高山麓のタータカにて採集せられた。そこで此の 2 標本を文獻に照し合せて見た處、臺灣のものは大陸産のものよりも遙かに小形なるを知つた。此の點は第一標本を研究した Ogilvie-Grant 氏¹⁾も既に氣附いて居つた所である。そこで鷹司公爵及び黒田博士に伺つた所鷹司公爵の御藏品の中に 3 個、黒田博士の御藏品中に 2 個ある事がわかり、兩氏の御好意に依つて夫れ等をも合せて調査する事を得た。其の結果愈々大陸のものと異なる事が明かとなつたので此處に記載する次第である。猶ほ東部支那のものを *Strix aluco harterti* La Touche としてヒマラヤのものから分つ事は La Touche 氏自身も其の誤りを信するに至つた。²⁾ されば大陸のものは *Syrnium niviculum* Blyth, Journ. Asiat. Soc. Bengal, xiv, p. 185 (1845—Himalayas) を用ふべきである。而して之れを *aluco* の亞種とすべきや否やに就ても議論の餘地があり、直隸省や Kashmir で *aluco* の他の亞種と *nivicola* とが共に採集せられて居る事、*aluco* では背に縦斑あるも、*nivicola* にては縦斑なき事等よりして近來は別種とする人の方が多い。されば余も此の見解に従つて *nivicola* を獨立の種と認め、臺灣のものは其の亞種とする事とした。

Strix nivicola yamadae,³⁾ subsp. nov.

Diagnosis. — Similar to *Strix nivicola nivicola* from China and the Himalayas, but the size is decidedly smaller. Length of wings of 6 adult males⁴⁾

- 1) Ibis 1908, pp. 605—606.
- 2) Handbook of the Birds of Eastern China, vol. II, part 2, p. 107 (1932)
- 3) Named in honour of Mr. N. Yamada.
- 4) 1 ♂ in British Museum, 2 ♂♂ and 1 unsexed adult in Prince Takatsukasa collection, 1 ♂ and 1 unsexed adult in Dr. Kuroda collection, 2 ♂♂ in Yamashina collection.

and 2 unsexed adults of this subspecies are 256—282 mm. instead of 282—312 mm. as in *S. n. nivicola*.⁵⁾

Type.—♂ ad., no. 20918 in Yamashina collection, Tātaka, Tainan Dist., Formosa, 26. IV. 1936, collected by Mr. N. Yamada.

Distribution.—Horisha, Nōkō-San and Rautai-San in Taichū District, Arisan, Tappansha, and Tātaka in Tāinan District, Formosa.

Measurements.—Wing 6 ♂♂ ads. 256—275 mm., 2 unsexed ads. 264—282 mm.; tail 5 ♂♂ ads. 153—168 mm., 2 unsexed ads. 149—171 mm.

明治神宮の花菖蒲は廿三日から卅日まで公開されてゐるが、この神域に十日ほど前、カル鴨（日本土著の鴨）らしい二羽の水鳥が十羽ほどの雛鳥を生み、親鳥がヨチヨチ歩きの子を連れて歩いてゐる

はじめはこの可愛らしい姿を見かけた拜観者もあつたが、二、三日前からこの親子づれが散り散りとなり、一羽の親は二羽の雛を連れ餌を求めて千駄ヶ谷口の垣をくぐつてどこかに姿を消してしまつた

残つてゐる親子も拜観者の雑沓で花菖蒲の咲いてゐる付近には姿を見せず、神域の奥深く逃げこんだらしいと、神宮社務所の話

（東京日日 昭和十一年六月二十五日）

5) Baker, Faun. Br. India, iv, p. 398; La Touche, Handb. B. East. China, ii, p. 107.